

学校支援を積極的に進める

地域と協働し、小中が連携したP T A活動

にじの丘学園 瀬戸市立にじの丘小・中学校P T A

1 はじめに

本校は、令和2(2020)年4月に小学校5校(深川小、祖母懐小、道泉小、東明小、古瀬戸小)と中学校2校(祖東中、本山中)が統合し、開校した施設一体型の小中一貫校である。その中で、9年間を見通した連続性・系統性に配慮した学習指導を充実させ、個に応じた学習や生活の支援を行っている。今年度の児童生徒数は、小学校が25クラス689人。中学校が11クラス245人。小中合計36クラス934人になっており、今後も増加する見込みである。



【にじの丘学園に架かる虹】



【小中合同の縦割り清掃】

小中一貫校という特性を生かし、さまざまな特色ある教育活動を取り入れている。例えば、小学校高学年学級に中学校の教員が乗り入れ授業を行ったり、1年生から9年生までの縦割りによる清掃活動を行ったりしている。さまざまな活動を通して小学生は中学生に憧れの気持ちを抱いたり、中学生は小学生に思いやりの気持ちが育ち始めたりしていると感じる。

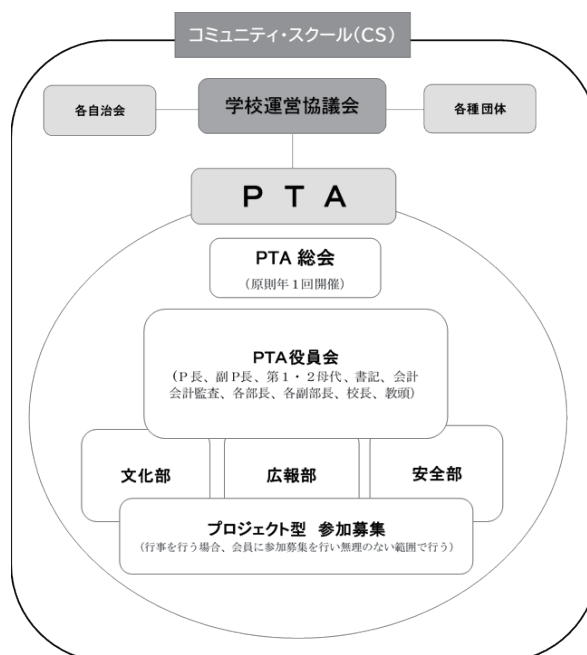
2 研究への取組

(1) 研究のねらい

P T Aの設立に向けて、活動内容や組織について開校2年前から検討委員会や準備委員会を立ち上げ、検討を重ねた。伝統のある小中学校7校が統合するということで、これまでのよさを生かしながら改善を進めることに加え、先進校の視察や学校関係者、自治会長をはじめとする各地域の代表者とも相談する機会を何度も設けてきた。そこでは、学校を支援することに負担を感じている人も少なくないことが分かった。そこで、保護者や地域の方々の負担が大きくなりすぎないP T A活動の構築をねらいとして研究に取り組んだ。

(2) P T Aの組織

本学園は「コミュニティ・スクール」を導入しており、学校運営協議会の下、小学校と中学校それぞれにP T Aが存在するが、コロナ禍により、予定していたP T A活動の多くが実践できない状況にある。反面、小学校と中学校のP T Aが連携・協力することで、会議が精選されたり、小中合同行事を推し進めたりすることができた。そのため今では、役員会などの会合は合同で開催している。



【P T Aの組織図】

3 実践活動の概要

(1) にじの丘学園P T A設立のあゆみ

【小中一貫校P T A検討委員会(平成30年5月～平成31年3月)】

回数	月	主な検討内容
第1回 第2回	5月上旬	検討委員会立ち上げの準備、メンバーの選定等 (参加者:7校P T A会長、小中校長・教頭代表、 教育委員会指導主事、地域コーディネーター)
第3回	5月22日	委員会の趣旨、P T A活動の検討等
第4回	6月12日	具体的なP T A活動の検討等
第5回	7月17日	組織についての検討等
第6回	7月31日	組織(役員構成について)検討等
第7回	8月22日	組織の決定、地域とのつながり等について
第8回	9月20日	7校の規約・行事予定・制服等について
第9回	10月11日	7校の学校行事等について
第10回	11月21日	事業計画案、規約等の検討
第11回	1月17日	決定したことの確認と来年度に向けて等
第12回	2月12日	規約案の検討と準備委員会への引き継ぎ等
第13回	3月4日	準備委員会への引き継ぎ事項と今後について等

【小中一貫校PTA準備委員会(令和元年5月～令和2年1月)】

回数	月日	主な検討内容
第1回	5月27日	前年度検討委員会の確認と今年度の提案等 (参加者：各校代表3名、市教委、校長・教頭代表)
第2回	6月26日	規約、予算等の検討、通学の見守り活動について等 (コミュニティ・スクール準備委員会と合同会議)
第3回	8月20日	通学の安全確保等について (コミュニティ・スクール準備委員会と合同会議)
第4回	10月2日	規約の決定、各校での役員選出準備について
第5回	11月14日	各小中学校の入学説明会での役割分担等
第6回	12月4日	役員決め、閉校前のPTA総会での説明内容等
第7回	1月8日	入学説明会、PTA総会に向けての確認等



【PTA検討委員会】



【PTAと自治会との合同会議】

(2) 各部会の活動

令和2年4月に開校してから約2ヶ月間休校が続き、最初のPTA総会も行えない状況で活動がスタートした。ただ、この1年半は新型コロナの影響もあり、予定していた行事はほとんどできてなかった。

PTA検討委員会や準備委員会で検討する中で、具体的な活動は「子どもたちのためになる活動を中心に」ということと「できる人が、できる時に、できる事を」をモットーに考えてきた。その結果、部会を極力少なくしようということになり以下の3部会となった。

① 安全部

子どもたちの登下校の安全のために、通学路の点検や見守り活動の推進を行う。

「にじ」＝「7色」ということで毎月「7の日」に行っている保護者ボランティアによる見守り活動は本校の特色の一つである。



【登下校の見守りボランティア】

② 文化部

子どもたちや保護者のためになる講演会や給食試食会などを計画している。小中PTAが協力して行うことで、保護者も9年間を見通す意識が生まれつつある。

③ 広報部

どの学校でも『広報部』の活動は大変だ!』となっていたため、広報誌を思い切って廃止した。代わりに学校と協力し、即時性のあるホームページやメールなどを活用して、広報活動のため行事の撮影やホームページ用文章の作成などを行っている。



【記録写真を撮影する広報部員】

(3) 小中PTAと一緒に活動することのメリットやデメリット

① メリット

- ・ 役員の縮小（定員を減らすことができる）
- ・ 小中の枠を超えて役員や委員を選考することができる。
- ・ 会議の回数を減らせる。
- ・ 行事を共催できる。（例：草刈り作業、給食試食会など）
- ・ 子どもたち同様、保護者にとっても9年間を意識することができる。
（例：中学生の親が小学生の通学の問題に先輩としてアドバイス）
- ・ 小学生の親が中学生の親の進路の悩みなどを直に感じることができる。

② デメリット

- ・ 小学校と中学校の日程調整等が煩雑。
- ・ 役員会の人数が多く、協議ではなく、報告会になってしまう。
- ・ 学校種独特の問題に、他校種で無関心になる人がいる。
（例：通学の問題などは小学校側が考えるべき）

4 おわりに

開校に向けて多くの方々に支えられながらPTA活動を始めることができた。しかしながら、新型コロナの影響で計画していた各部の行事や活動もほとんどできていない。開校と同時に「地域学校協働活動」もスタートしており、PTAもその一員として地域とのつながりを意識したあり方を考えなければならない。今後も『「できる人が、できる時に、できる事を」をモットーに実践するPTA』を大切にしながら活動を進めていきたい。